



つとむ通信

ともに変えよう富津の未来
ともに創ろう富津の未来

千葉県議会議員 渡辺つとむ事務所
千葉県富津市千種新田375-5

Tel 0439-65-0526 FAX 0439-65-0683

e-mail tsutomu364@rondo.plala.or.jp



ホームページ

政策討議資料

No.38 令和8年 夏 活動報告

千葉県議会議員 渡辺つとむは、令和8年6月議会で一般質問に登壇、様々な課題について県政を質しました。また、同議会にて県土整備常任委員会の委員長を拝命。党務では千葉自民党の政調会副会長を仰せつかりました。それぞれの役職に全力で取り組み県民市民の皆様のお役に立てるよう全力を尽くします。どうか「議員は選挙の時ばかりお願いに来る。」とおっしゃらないでください。そしてぜひ皆さんのご意見をお聞かせください。

令和8年6月県土整備常任委員会

◇ 成田空港「第2の開港」を支える広域道路ネットワークの充実・強化について

・成田空港の3本目の滑走路増設が進んでいますが、その「第2の開港」後を見据えて県では効果を広域に波及させようと様々な地域で基盤整備を進めています。

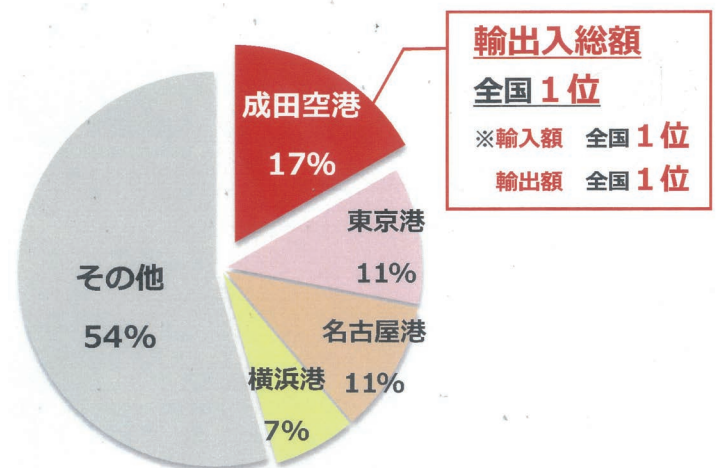
昨年11月には「新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築の基本方針」をまとめ取り組みを始めました。また今年2月にはこの基本方針を踏まえたシームレス（境目のない）な高規格道路アクセスの実現を目指し、知事が国へ要望を実施したところです。

そのような活動の結果、(仮称)成田空港周辺インターチェンジや国道296号船橋市前原西工区について、新規の事業化が決定しました。

また、北千葉道路についても、4月に市川・松戸間の約3,5km区間が国の直轄区間に編入されました。千葉県では、広域道路ネットワークの充実・強化を進め、第2の開港に伴う効果を広域的に普及させるよう、ネットワークを最大限活用し、空港アクセスの抜本的な高速化・多重化に向け取り組んでいるところです。

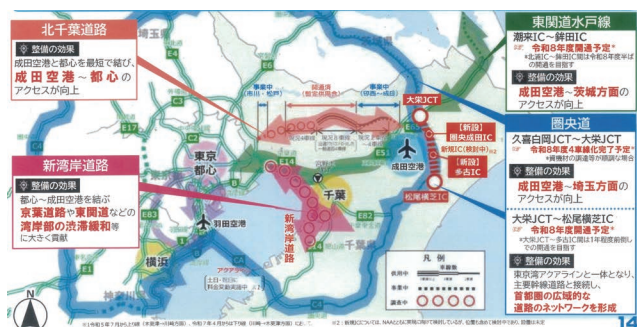
つとむの視点

我が国における輸出入額割合（令和6年）



成田空港は世界の人と人を結ぶ国際空港であると同時に、輸出入貨物取扱量日本一の大物流ターミナルです。そこへの交通アクセスを向上させ人やモノがスムーズに流れることは、千葉県経済にとって大きなチャンスです。「成田や県北部ばかり」と考えられがちですが、実はアクアラインや木更津港（港湾施設）の充実も含めて県全体に成田3本目の滑走路の効果を高めることは私たちの住む富津市にとっても大いに経済活

性化に役立つものだと考えます。引き続き県土整備常任委員会の一員として、「富津にどのようなメリットがあるか」も考慮しながら道路政策に取り組んでまいります。



千葉豪雨について

令和8年8月13日から14日にかけて千葉県北部を中心に大気が不安定になり、記録的な大雨にみまわれました。千葉市では14日01時40分までの12時間に348ミリの降水を観測し、観測史上1位の値を更新し、8月の平年の1か月の降水量の3倍程度の雨を12時間で観測しました。

この豪雨でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆さんに心からお見舞いを申し上げます。

千葉県の主な初動対応は

13日16:27 災害即応体制設置

18:30 帰宅困難者一時滞在施設準備

19:30 災害対策本部設置

20:00～千葉県DMAT調整本部活動開始

22:00 災害救助法の適用 24市町に

14日5:00陸上自衛隊災害支援派遣要請

等の対応をしました。

帰宅困難者の一時滞在施設や各市町への県職員の連絡調整係(リエゾン)の派遣。トイレカーの派遣や給水車による応急給水の実施、災害廃棄物に係る市町村支援、各種広報媒体

による発信等多くの緊急対策を行いました。

特に今回の災害で特徴的な水没による放置車両については、国・県管理道路で136台、千葉市管理の幹線道路で約200台、県内各市町村で267台の放置があり、交通安全上の危険を懸念し早期に移動・撤去の措置をしました。その他にも路肩等に放置された多数の放置車両については、仮置き場の敷地の問題や、所有者の特定など多くの問題が見えてきました。8月21日現在、プロジェクトチームを立ち上げて対策に当たっているところです。



千葉県庁に設置されたトイレカー

私達県議会は、県民の皆さんが1日でも早く普段の生活を取り戻せる様、又様々な困りごとに行行政が対応できる様連絡・連携を密にすることが必要と考え取り組んでいます。

さらには今後の防災対策について、現状を把握し施策につなげることも重要です。

つとむの視点

今回の災害は、幸いにも私たちの住む富津市には大きな被害はありませんでした。しかし、たまたま今回は線状降水帯が県北に寄っただけで、今後同じような状況が来ないという保証はありません。今、国が進めている「国土強靱化」の政策の中で強く進めている政策が「流域治水」という発想です。

農地・農業水利施設を活用した流域の防災・減災の推進（「流域治水」の取組）



今回氾濫した河川を見て感じたのは、現在ある川幅を広げたり堤防のかさ上げを施したりというのは、膨大な費用が掛かるし時間もかかります。現実的に被害を少なくするには、上流の地域も含めて治水対策をしていくこと。具体的には上流の水田地帯の貯水機能を高める「田んぼダム」や、堰・ため池の整備をして大量の雨が降ってもある程度上流の施設で貯水して一気に下流に流れ込まないように調整ができる機能が現実的です。すでに県内のため池などはその現状の調査がほぼ終了し、具体的な対策を検討する段階となっています。かずさ4市で言うと小櫃川上流の寺沢地区にあるため池は、具体的な対策を進めるべく工事を進めようとしているところです。今ある施設が、老朽化していたり、何十年もほとんど手を加えられていない堰・ため池を見直すことは下流域の住民の安心の為にも重要なのだと思います。引き続き農業基盤の整備とともに取り組んでまいります。

6月議会一般質問

6月議会でも渡辺つとむは一般質問壇上に立ちました。詳細は「県議会レポート」にて報告させていただきますが、そこに記載できなかった内容についてご報告します。

房総地域の魅力について

質問 私の住む富津市では6月に地元観光協会とキッチンカー協会の合同イベントとして「富津公園キャンプ場ナイトマーケット」のプレオープンイベントが開催され、多くの関係者で賑わった。いわゆるナイトタイムエコノミーを意識したコンテンツを増やすことは新たな観光需要の創出には重要だ。また、地域住民や各種団体が共同で地域の観光資源の開拓に取り組むことは大変有効な手段だ。そこで伺う。

「内房エリアの観光地域づくりに、今後どのように取り組んでいくのか。」

商工労働部長 内房エリアでは、インバウンドを含めた高付加価値旅行者を主なターゲットに、「海と夕陽」が織りなす景観を生かすとともに、滞在型で消費単価の高い観光地の形成を目指している。新たなコンテンツ造成などの具体的な取組は、地元市町や観光・宿泊事業者等の多様な主体が参画した協議会で議論することになる。現在、協議会の設立に向けた準備を進めており、今後鋸山に於いて行われている夜間のライトアップを活かした特別ツアーや海と夕陽を活かしたプロモーションの実施について議論していく見込み。引き続き関係市町や関係団体と連携しながら、内房地域が国内外から選ばれる魅力ある観光地となるよう取り組んでいく。

要望 国道127号の館山市川名地先までの区間は妙鐘トンネルをはじめとする、幅員の狭いトンネルが数か所ある。引き続き早期に安全が確保される様、国に対し積極的に働きかけるよう要望する。

つとむの視点

いわゆる「ナイトタイムエコノミー」の内容を充実させることは、宿泊も含めて観光客の富津への滞在時間を長くすることにより、そこで消費する額も高めようという狙いがあります。宿泊施設の

充実も含めて、今ある観光資源を大いに有効に使うには、外部の事業者からのアイデアも活用しなければいけません。同時に各地で言われる「オーバーツーリズム」のひずみも対策を考慮しなければいけません。両方のバランスの取れた観光資源とするには、お互いの率直な協議の場が重要だと考えます。

引き続き地域の観光資源の有効化・効率化に取り組んでまいります。

フェーズフリー条例 9月議会に

自民党千葉県フェーズフリー議員連盟に所属の有志による条例案上程が令和8年9月議会に予定されています。

「平時であると災害時であるとを問わず、施設、設備、製品及び役務を円滑に利用できる様にしていくこと。」を定義として考え、

- (1) **平時において**利用する施設について、その用途、機能などの見直しを行うことで、**災害時においても**県民の健康や生活の質の維持ができるようにすること。
- (2) **災害時に利用する施設等について**、その用途、機能の見直しをすることによって、**平時においても**県民の利便性や安全性の向上に役立つものになること。

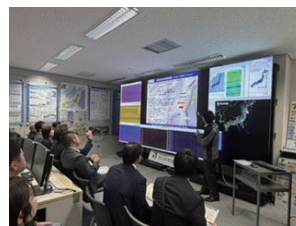
大きく分けて上の(1)・(2)を可能にする取り組みを推進することを目指します。

わかりやすく言うと、普段使う施設や機能を、災害時でも使えるものとして考慮しながら整備をし

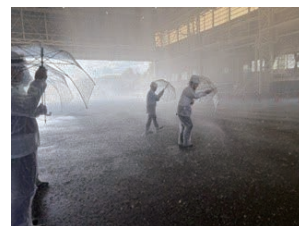
ていくこと。例えば官公庁で使用する自動車のうちEV車の比率を高めることにより、非常時の電源として利用したり、施設の新設の際には、非常時には避難所として利用できるような配置や器具を備えたり、民間の場合、それぞれのお宅に自家水井戸があれば、それを自治体に登録しておき、災害時に非常用の水源として活用できるようにするなど、わざわざ災害時の為だけに備えるのではなく、普段使いできるように考慮していくことを基本の理念としています。

渡辺も3年前の初当選以来、この議員連盟に参加し、多くの視察や勉強会、意見交換会などで活動をしてまいりました。皆様にもぜひこの条例案にご理解をいただきたいと思います。

活動報告



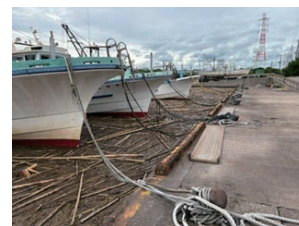
 つくばの防災科学研究所訪問 座学とともに降雨施設にて想定雨量300ミリの実体験



 大雨被害で崩落した染川河岸



大雨で流竹木が侵入した小糸川漁港 



渡辺つとむプロフィール

昭和36年4月25日富津市千種新田生れ
県立木更津高校卒
立教大学経済学部卒(弁論部出身)
工学院大学専門学校建築科研究科卒
藤和不動産(株)財務部に勤務後
現在家業(有)渡辺サッシ代表取締役



元富津市議会議員(令和2年～令和3年)
富津市バドミントン協会会長
富津市国際交流協会副会長
令和5年4月 千葉県議会議員当選
千葉県議会 県土整備常任委員会委員
千葉自民党政調会 副会長
自民党千葉県議員団23会代表